

柳井市立日積小学校令和3年度 地域活性化助成事業活動概要

研修主題

学校・地域連携カリキュラムを軸にした教育活動の推進

1 研修の目的

本校区は、古くから学校教育に協力的で温かく人情味あふれる地域である。県や市の基本方針を基に「コミュニティ・スクール構想」を掲げ、学校・家庭・地域が「学校・地域連携カリキュラム」を軸にして連携協働し、教育活動の更なる充実と地域の活性化につなげたい。

2 研修の方向性

(1) 学校・家庭・地域と連携した教育活動の充実

- ① 学校・地域連携カリキュラムの充実
- ② 学校応援団による効果的な学習活動の創造
- ③ 校内研修の活性化と日常化による教育力の向上

(2) 地域に愛され、地域とともに歩む学校づくり

- ① 地域と連携した教育環境の整備
- ② 地域行事への参画と地域貢献

3 研修の概要・成果

(1) 学校・家庭・地域と連携した教育活動の充実

① 学校・地域連携カリキュラムの充実

○熟議①（学校運営協議会委員とともに）で「めざす児童像」共有

学年	めざす児童像(考える子・思いやりのある子・実践する子)
低学年	考 相手の意見を聞き、学びにつなげる力 思 自他のよさを認め合う心 実 めあてをもち、あきらめずに取り組む力
中学年	考 自ら課題を見つけ、かかわり合いながら追究する力 思 他者を思いやる温かい心 実 進んで地域社会とかかわり、実行する力
高学年	考 主体的に課題解決に向かい、新たな価値を見出す力 思 互いに理解し合い、感謝し奉仕する広い心 実 地域のよさをとらえ、他者と連携・協働しながら生き抜く力

② 学校応援団による効果的な学習活動の創造

○熟議②（学校応援団の皆様とともに）で日積の「人、もの、こと」再発見、よさや課題の共有、授業づくり（単元の流れ作成）

〈意見交流より〉

・失敗から学ばせたいね。お膳立てするのではなく、困った時に力を貸したりアドバイスするようにしたいね。保育園との連携もしたいね。（低学年）

・移住して、ぶどうを作っておられる方がいらっしゃいますよ。体験から学ばせたいですね。ぶどうもたくさん種類がありますよ。PR方も話し合っていたいですね。（中学年）

- ・とにかく楽しく学ばせたいですね。課題を立て、調べ、体験して実践して提案していく流れを大切にしたいですね。何が学びたいか児童の意見を聞くため、児童と一緒に熟議をしたいですね。(高学年)

③ 校内研修の活性化と日常化による教育力の向上

○第1・2学年 生活科「ぐんぐんそだて わたしの野菜」

- ・熟議で授業のねらいを共有することで、課題解決的な学習を取り入れることができた。
- ・支柱立てや害虫駆除の作業など自分たちで調べたり試したりする体験を多くしていたので、地域の方との交流では、積極的に質問したり助言を仰いだりする姿が見られた。

○第3・4学年 総合的な学習「発見しよう 日積のよさ」

～日積の特産品「ぶどう」について学ぼう～

～特産品のPR法を話し合おう～

～特産品「キャベツ」をPRし、販売しよう～

- ・地域の方との熟議により、教師だけでは気付かない日積のよさ(場所・歴史等)を知ることができ、授業構成することにつながった。
- ・地域の方々と学授業をつくっていくことで、児童は意欲的に取り組み、ふるさとを誇りに思う児童が育ちつつある。
- ・「日積ふるさとまつり」で調べてまとめた「キャベツレシピ」を紹介したり販売したりして、PRの仕方を学ぶことができた。他の発信の仕方も学ばせていきたい。ぶどうのチョコレートに挑戦し、掲示やPRをした。

○第5・6年 総合的な学習「日積・柳井市のより未来を考えよう」

- ・地域の方々から様々な意見を聞くことで、課題の焦点化につながった。
- ・地域の方々に定期的に授業に参加していただくことで、思いを直接聞くことができた。児童は主体的に学習に参加することができた。

(3) 地域に愛され、地域とともに歩む学校づくり

① 地域と連携した教育環境の整備

- ・コロナ禍で、延期を余儀なくされたが、「日積ふれあい運動会(地域)」に向けて、地域・保護者・学校が一体となって協力して、除草作業を行った。児童からは、「残暑が厳しかったが、地域の方々と一緒だったので、最後まで頑張れた」「気持ちよく演技ができます」「気持ちよい環境で遊べます」という感想を伝えた。日頃から、行事だけでなく、草が伸びたら刈ってくださったり、運動場をならしてくださったり、剪定をしてくださったりなどして積極的に環境整備を進めて学校運営に参画してくださっている。

② 地域行事への参画と地域貢献

- ・コロナ禍で多くの行事が中止になったり、延期となったりした中、12月に行われた「日積ふるさとまつり」への3・4年生の参加は、次の活動への意欲となった。自分たちが苗植え、収穫に携わった「特産品キャベツの販売」は、レシピ紹介と相まって、売れた喜び、地域の人から褒めていただいた喜びは、自信となり、次の主体的な学びを生むことができた。
- ・5年生は、総合的な学習「日積・柳井市のよりよい未来を考えよう」で、特産品の米粉があまり知られていない課題に気付き、米粉のレシピ開発に挑戦した。食推協議会の方々にオリジナルレシピの評価をいただいたり、レシピに基づき実際に一緒に作ったりして、さらにレシピを改良していった。レシピを日積ふるさとまつりで掲示し、紹介した。
- ・6年生は、地域探訪で日積の歴史に思いを馳せたり、竹がはびこって環境が悪化していることに気付き、熟議で解決策を考えたりした。また、「竹を切り、竹灯籠を作り、若杉のイルミネーションに参加しよう」「わたしたちにできることをしていこう」と実践力につなげることができた。日積のよりよい未来のために、学んだことをムービーにまとめた。また、ムービーをよりよくするためには、熟議で地域の方々からアドバイスをいただき、生かすことができ、「日積ふるさとまつり」で上映することができた。

4 成果

- 熟議により新しい視点を生み出し、授業づくりに生かすことができた。(教師)
- 熟議で学びを共有することで、地域の方々の思いを知り、主体的な学びができた。
- 「情報の共有」「目標・ビジョンの共有」「つどう楽しさ」「つながる喜び」を感じ取ることができ、よりパートナーシップが強化された。(地域・家庭・児童・教師)

5 課題

- コロナ禍で「協働活動」の縮小を余儀なくされた学年もあった。実際に地域の方々とともに実体験することで、成功体験の共有が次の意欲につながると考える。
- 児童の実践力・発信力を高めていく支援法をさらに追究していく必要がある。
- 「どんな力が伸びたか」児童の自己評価とともに、多くの方々に評価していただき、検証していくとよい。
- 評価を来年度の学校・地域連携カリキュラム・学校地域連携協働活動に生かしていきたい。

